

## 平成 26 年度第 1 回尾張旭市健康推進委員会 議事録〔要旨〕

### 【開催日時】

平成 26 年 7 月 4 日（金）

開会 午後 1 時 30 分

閉会 午後 3 時 00 分

### 【開催場所】

尾張旭市保健福祉センター 2 階 201・202 会議室

### 【出席構成員：11 名】

日比野 清康（瀬戸旭医師会）【委員長】

柴田 浩二（尾張旭市歯科医師会）【副委員長】

加藤 富士子（尾張旭市薬剤師会）

斎藤 征夫（名古屋経済大学）

村瀬 利治（尾張旭市自治連合協議会）

西山 妙子（尾張旭市地域婦人団体連絡協議会）

吉田 与十六（尾張旭市体育協会）

額額 陽子（尾張旭市健康づくり食生活改善協議会）

田口 良子（瀬戸保健所）

青木 峯子（公募委員）

浅野 憲治（公募委員）

### 【欠席構成員：3 名】

宮田 敬三（旭労災病院）

森田 敬一（公立陶生病院）

三浦 雅子（愛知県健康づくりリーダー連絡協議会瀬戸支部）

### 【傍聴者】

なし

### 【出席した事務局職員】

若杉健康福祉部長、吉田健康福祉部次長、竹内健康課長、清水健康課長補佐、長嶋健康課長補佐、磯村健康課副主幹

### 【議題】

第 2 次健康あさひ 21 計画の骨子案について

## 【会議の概要】

- 1 開会
- 2 議題
- 3 その他
- 4 閉会

### 1 開会

<欠席委員の確認、会議の公開についての報告、会議資料についての確認等>

### 2 議題

第2次健康あさひ21計画の骨子案について

<事務局より資料に基づき説明>

(委員長)

第2次計画骨子案のご説明をいただいたが、この内容について何か質問やわからないところ、用語がわからないことなどはあるか。多岐に渡っているので思いつかないかもしれないが、ご意見をお願いしたい。

(A委員)

これは10年計画になるようだが、今の時代では計画期間が長すぎるのではないか。国が平成34年までというのでそうなっているのだと思うが、国の終期に合わせて8年間の計画とすることなどはできないか。

(B委員)

10年というのは長いと思うが、5年の時点で中間評価を入れることで区切っていると思う。国がこの計画をはじめに作った時にも10年という期間が長いと意見が出たようである。しかし、人の生活習慣はそう簡単に変わらないため、ある程度長期間でないと変化が見えないということで10年の計画になった。尾張旭市としても、市民の生活習慣の変化を見ていくことが課題である。また、国や県が10年間の期間で、指標の基準値から何ポイント改善したかをみているのに、市だけが期間を変えてしまうと、変化が比較しづらい。

(委員長)

国と市の比較をする時に、年度が違えば結果も違ってしまう。

(B委員)

その時々時代の流れも踏まえる必要があると思う。

(事務局)

計画を進めてきた10年を振り返ってみると、確かに大きく社会情勢が変わっている。特に健診の考え方が変わり、メタボリックシンドロームという言葉が入った。最近ではロコモという言葉が出ており、社会的な認識が広まっている。ポピュレーションアプローチ（健康づくりの国民運動化）、すなわちヘルスプロモーション（自らの健康は、自らよりよくコントロールできるようにしていくこと）は、行政がやるのではなく皆でしていきましょうというものである。そういっ

たものは、やはり長いスパンでないと結果が出ない。問題は、長い時間をかけていかに真剣に取り組むかである。全国の自治体の中でも、頑張っているところは真剣に行っている。そうでない自治体は旧態依然の、健診中心の取り組みとなり、結果があまり出ていないように思う。尾張旭市も、本当に長い間、スタッフが頑張り、結果として悪くない数字が出ている。ヘルスプロモーション、ポピュレーションアプローチとしては長い時間をかけないと結果が出てこないの、5年に1度の見直しを行う10年の計画でよいと考えている。大きな社会変化はあるので、それをいかに取り入れて展開を行うかが重要だと考える。

(委員長)

健康は2～3年ですぐに結果が出るようなものではないので、10年というのは適当な期間だと思う。

(A委員)

この計画は10年でつくりなさいと国から言われており、どこの自治体も10年で計画しているのか。

(事務局)

例えば、医療費を集中的に下げようと思うと、3年か4年である程度の結果が出る。その部分に集中的に取り組めば数字は早く出るものである。しかし、この計画ではやはり全体を見て、全体を引き上げることが大事だと思う。

(委員長)

スパンについてはいろいろな意見があるが、今の意見を聞いておおよそ納得できたと思われる。その他に意見はあるか。

(C委員)

平均寿命と健康寿命の違いについて教えてほしい。

(事務局)

平均寿命は生きている年数のことである。健康寿命の計算方法は3種類ほどあり、そのうちのひとつについての説明が資料の22ページに載っている。表の中段下に書いてあるように、日常的に介護を必要とせず、心身ともに自立して生活できる期間を示すものである。ここでは要介護2以上に認定されるまでの期間に65を加算した数字として算出している。

(委員長)

これを見ると5年ごとに健康寿命が延びることとなっている。

(事務局)

総合計画の目標値として算出しているものである。

(委員長)

それは医療や薬の発展によるのか。

(事務局)

介護を必要としない期間として出しているの、主に介護予防などを進めることで結果が出ると思われる。

(委員長)

医療によって健康寿命を延ばすという考えは本当の考え方ではない。自然体で延ばすものである。寝たきりにならないように、元気で寿命を延ばすことだと単純に考えている。要介護にならない長生きということである。90歳で要介護なしというのは素晴らしい。

(事務局)

自分のことが自分でできる期間がどれだけ長いか健康寿命であり、誰かの手を借りないと生活ができなくなると健康寿命はそこで終わりである。尾張旭市の場合、女性の平均寿命は長い、健康寿命は短い。つまり介護されている女性が多いということである。やはり自分のことを自分でできることが一番幸せであるということで、健康寿命を延ばすことを目指している。

(委員長)

医者にかかりながら病気をして長生きするのは、健康寿命とは相反することである。

(事務局)

そのために皆さまとこの計画を立てている。これで健康寿命が延びれば一番よい。

(委員長)

健康寿命の概念は理解していただけたらどうか。

(A委員)

資料の10ページを見ると、悪性新生物というのも生活習慣病である。生活習慣病というのが死因の大部分を占めているようだ。生活習慣病にならなければよいのだろうか。

(事務局)

昔は死因の多くが感染症だった。先ほどの説明の中で「非感染症疾患」という言葉も出たが、生活習慣病は非感染症疾患ということになる。昔は衛生状態も悪く、いろいろな伝染病や感染症で多くの人亡くなる時代があった。経済状態が良くなり、生活が豊かになると同時に病気の種類が入れ替わり、これではいけないということで計画を実施することになった。

(委員長)

生活習慣病にかからないようにすれば平均寿命も延び、健康寿命も延びる。

(A委員)

計画の基本方針についてだが、ほとんどが高齢者に対するものである。子どもに関する視点はないのか。

(事務局)

「健康日本21」というのは大人に関するものが多く、子どもや乳幼児に関するものは「健やか親子21」という別の計画で進めている。基本的には成人向けの計画である。生活習慣病を予防し、より健康寿命を延ばすための計画という位置づけである。

また、この後の組立てで、それぞれの年代や生活に応じたライフステージごとの章を設ける予定である。

(A委員)

ライフステージごとというよりも、基本方針としてあるべきではないか。

(事務局)

25ページを見ていただくとわかるが、それぞれの取り組みのなかで、健やか親子はひとつの項目を持って取り組みを決めさせていただいている。

(A委員)

それはいいのだが、基本方針に健やか親子が抜けているのではないか。

(事務局)

この基本方針はすべての方に該当するものであると理解している。例えば、母親や妊婦は自分だけではなく生まれてくる次の世代の健康も考えているので、妊婦さんに合った生活習慣が取り込まれている。きちんと朝食を摂ることなど、子どもの頃から生活をきちんと見直すことも大事である。このように、すべてに関わることとして基本方針を認識している。それを具体的にライ

フステージごとにわかりやすくしていこうというのが後ろの章である。基本方針は広く該当するものとして理解していただきたい。

(A委員)

文章のどこにそれが表れているのか。1番と、かろうじて4番があてはまるが、2番3番は明らかに高齢者のものと感じる。

(委員長)

計画自体が高齢者に向いており、子ども達に向いていないということか。

(A委員)

基本計画の指針として子どもの分野が入っていないのはおかしい。基本計画なのだからあくまで世代全体を貫くものでなければならない。

(委員長)

ライフステージのところで対応しているということだった。

(D委員)

2番の「望ましい生活習慣の定着」に、子どもの朝食の欠食や正しい食生活ということも入っているのだから、すべての年代に適応して行われているということではないか。

(事務局)

文面にすると難しいが、基本的にはこの中身は基本方針に基づき分野別の計画やライフステージごとの中身が出てくるので、その通りだと考えている。

(A委員)

話の主旨はわかるが、基本方針の中にひと言入れてほしい。

(事務局)

主旨は理解していただいたということで、文章については一度見直しを検討する。

(委員長)

他の項目について何か意見はあるか。

(A委員)

計画なので、取り組みの推進部署を明確にしてほしい。

(事務局)

分野に関して、「市役所の〇〇課が担当する」と明確にするということか。

(A委員)

計画は目標ありきで進めていく。目標値があり、推進担当部署がそれに向かって進めていかないと計画にならない。

(事務局)

今年度から始まっている尾張旭市の最上位計画である第5次総合計画について、計画の中では分野ごとに施策が書いてあるが、担当部署の表記はされていない。表記されない理由は、市役所の組織が10年先まで同じということではなく、常に組織そのものを見直しているからである。今の健康課が10年先まで健康課という課であるかわからない。責任の所在を明らかにするために、3年ごとに見直しをする実施計画をつくり、その中に事業に対する責任の所在をうたっている。「健康あさひ21」の計画書でも、担当部署を載せてはいないが、進行管理を行っていく中で、また別で示すことができるように考えている。

(B委員)

今回の計画に尾張旭市らしさを入れてほしい。現在の計画の中で、103ページから「WHO健

康都市の推進」というものがのっている。尾張旭市はこのような健康づくりが進んでいるところなので、このようなものを入れてほしい。

(事務局)

入れたいと思っている。

(B委員)

入れないと寂しい。資料編としてでもかまわないので入れてほしい。

(委員長)

尾張旭らしさを盛り込んでいただきたい。では、続いて「3 その他」についてお願いしたい。

### 3 その他

<事務局よりスケジュール（作業部会）について説明>

(委員長)

作業部会の進行状況については、会議として集まらなくてもファックスなどで知らせていただくと途中の流れがわかるのでお願いしたい。今日の議題は終了したが、他に何かご意見があれば伺いたい。

(A委員)

現在の計画の106ページに、40名の健康づくり推進員さんがいると書いてある。1期生22名、2期生18名となっているが、欠員の募集はないのか。

(事務局)

3期生の募集を3年前にしている。随時募集はしていない。講座を受けていただくなどして、ある程度知識を備えていただいた方に、市民の健康づくりのリーダーとなっていただいている。現在は募集していない。

(A委員)

何名いるのか。

(事務局)

全体で28名である。

(A委員)

増やす予定はないか。

(事務局)

現在の28名でもかなりの大人数であり、これから増やすという予定は今のところない。

(A委員)

増員はないということだが、増員してほしい。

(事務局)

すぐには難しい。

(E委員)

連合自治会では、健康推進に関心を持ち、さまざまな行事をしている。限られた範囲だが、ふれあいスポーツ事業部というものをつくり、寝たきりにならないための講習会などを行っている。他にも活動をしている団体があるかと思うが、情報がないので、もし情報があれば教えていただ

きたい。また、提案もいただきたい。連合自治会で筋トレなど、いろいろなことをしていきたいと思っている。

(委員長)

情報の伝達ということか。

(E委員)

具体的に、「こういうことをしてはどうか」という提案をしてほしい。6月に市から補助金をいただき、160人くらい高齢者から幼児まで集まって、3世代交流クローカー大会を開催した。他の連合自治会がどのようなことをしているか具体的な情報を教えてほしい。

(委員長)

他の連合自治会との、横の繋がりを強くする会はないのか。

(E委員)

あるが、具体的にこれについてということはない。いろいろなことで話は出てくるが。

(委員長)

旭台と旭ヶ丘は横のつながりができており、最近では日進の豆腐屋さんを通して情報が伝わっている。隣町から情報が伝わってくるというのは、伝わり方として一番よいと感心している。

(事務局)

旭台や旭ヶ丘では、一生懸命にいろいろな活動をされている。自治会活動、町内会活動は、福祉事務所ではなく、市の市民活動課という部署が担当している。福祉事務所がまったくの無関係というわけではないが、細かい個々の活動となると我々も情報を持っていないのが現状である。旭ヶ丘や旭台の話を知ると、買い物に出られない買い物弱者のためにお豆腐屋さんが出前で販売に来てくれ、さらに高齢者の安否確認もしてくれるなど、本当にきめ細かいことをしている。他の地域ではそこまではしていない。尾張旭市では、瑞鳳青空市という、遠くまで買い物に行けない人のために卸センターが大塚公園に来て2～3時間販売をする試みをしている。他の地域でも、耳に入らないだけでいろいろなことをしていると思う。今お話いただいたことは心に止め、アンテナを高くし、皆様に必要なことがあれば情報として提供したい。

(事務局)

例えば、健康都市推進室がウォーキング事業を表示し、皆様にわかるようにするなどの作業をしている。「ぐっと健康！人・まち・なかま事業」というものもある。連合自治会にこの事業に入ってもらい、情報を発信していただくという形も考えられる。旭ヶ丘さんがさらに取り組もうとしていることは非常に嬉しく思う。積極的に頑張りたい。

(委員長)

他にご意見はないか。なければ本日はこれで終了とする。ご協力ありがとうございました。

#### 4 閉会